

## 成長し続ける教師であるために

中島真紀子

(高崎市立吉井西中学校)

## 1. はじめに

一昨日までできなかったという事実が、今日もできないという理由になんかならない—

喜多川泰(『君と会えたから』ディスカヴァー・トゥエンティワン)

私の大好きな本の中に出てくる大好きな言葉です。私は英語教師として、生徒たちには英語を通して人間的に大きく成長してほしい、常にそう願っています。そして、その成長を促すためには、教師である私自身も成長し続けること、そして成長し続けるための努力をしていかなければいけない、と信じています。そのために心掛けていることは次の4つです。

- 出会いを大切にす
- 非日常をつくり出し、体験する
- 本を読む
- 積極的に、そして前向きにいく

## 2. 出会いを大切にす

最近では、さまざまな場所でさまざまな英語の研修会や講演会が開かれています。私自身、周囲の人に「趣味は研修と講演会を聴きに行くことです」と語るほどの研修・講演会好きです。その中でも、よく参加させていただいている英語指導力向上のための研修会は「英語授業研究学会」や「ELEC 同友会」です。私の地元群馬県では、有志で「群馬英語授業研究学会」を2ヶ月に一度開催し、自らの授業を撮影したビデオによる授業研究等を行っています。そこには、小学校の先生から高校、大学で教えていらっしゃる方まで、さまざまな職種や立場の人々が参加していただき、学びの多い場となっています。研修会を企画運営し、そしていろいろな会に参加させていただ

ているにもかかわらず、毎回、新しい「考え方」や「指導法」に出会うことができます。何よりも意識の高い英語の先生たち、同じ志を持った先生たちとの出会いや交流があります。その貴重な出会いは「明日からまた生徒のために頑張ろう!」「よりよい授業にしていこう!」「あの方法を使ってみよう」というプラスのエネルギーを与えてくれ、月曜日からの授業が待ち遠しくなるような感覚を味わわせてくれます。

また、私が得た素敵な出会いが、目の前にいる生徒たちの貴重な体験にまでつながった、という経験も幾度となくあります。以前、英語授業研究学会で一緒にさせていただいたご縁で、NHK『基礎英語2』の講師であった文教大学の阿野幸一先生に、昨年度、本校の中学2年生の2クラスで飛び込みの授業をしていただくという幸運に恵まれました。阿野先生の、英語に対するあふれるような思いがぎっしりと詰まった、実に楽しい授業となりました。『基礎英語2』を家で毎日聴いていた男子生徒は、「いつもラジオから聴こえてくる声が目の前で聴こえる!」と、大興奮でした。

## 3. 非日常をつくり出し、体験する

車での20分間の通勤時間。そこでは「英語漬けになる」と決めています。意図的に非日常の世界をつくり出すことで、自分自身の英語力をブラッシュアップする時間にしていきます。出勤途上はNHKのラジオ講座を聴き、退勤途上には*English Journal* (アルク)を聴いています。ちなみに、ちょうど出勤時間帯に聴くことができるのは、『基礎英語2』または『基礎英語3』。担当している生徒たちに向かって「毎日基礎英語を聴こう!」と呼びかけているので、私自身も聴くことで、欠かさず聴いて

いる生徒とストーリー展開等についての会話が広がり、オススメです。また、実際に指導することになる言語材料について、使用頻度の高いものを紹介しているコーナーなどは、なるほど〜と感心することも多く、日々の指導にも確実に役立っています。

さらに、海外ドラマにはまっていて、お気に入りのドラマを、常に英語で視聴しています。ずっと長い間お気に入りのドラマは、ニューヨークを舞台とする犯罪ドラマ *Law & Order* です。思いがけないストーリー展開に引き込まれるだけではなく、おかげさまで、裁判で使われる専門用語にも非常に強くなりました。いったい、いつ使えるのだろうか、と思ってしまうのですが…。まさに非日常です。

また、私自身が「英語の教科書を自分の言葉で語れるようになる」ことを目指しています。非日常の世界をつくり出し、架空の人物になりきり、教科書の本文をまるで自分の言葉であるかのように語れるようになるまで、ひたすら練習します。この作業は、必ず授業で役立ちます。教科書題材のオールイントロダクションを磨きたい、Teacher Talk を磨きたい、と思っている方には一番の近道だと思います。

#### 4. 本を読む

英語がペラペラ話せれば英語教師が務まるのか？その答えは、No です。私自身、さまざまな知識を持ち、物事を多面的に捉え、それらを生徒に伝えていける教師となれるよう心掛けています。まだまだ理想には程遠いですが…。もともと読書好きでしたが、最近は、よりたくさんの本、そしていろいろなジャンルの本を読むようにしています。今は学校図書室の司書さんのもとに通うことが、密かな楽しみとなっています。そこで人気のある本や新刊の情報を教えてもらい、生徒と競って借りています。生徒に人気の本を知って読んでおくだけで、small talk の話題が増えますし、生徒との日常会話も弾むようになります。

私の知り合いの先生は、教科書に出てくる登場人物や事柄についての知識を増やすために、題材の内容に関連した本を探し、教材研究の一環で読書を行っています。今回教科書が改訂され、*NEW CROWN Book 2* には *The Tale of Peter Rabbit*

が新たな題材として加わりました。恥ずかしながら、ピーターラビットの話自体を読んだことがなかった私は、早速購入して読んでみました。そのおかげで、オールイントロダクションもばっちり。そしてピクチャーカードと話とを見比べていた生徒が発した疑問にも、即座に答えることができました。読んでおいてよかった、と心から思った瞬間でした。

#### 5. 積極的に、そして前向きにいく

〇〇年目研修などといったおさまりの研修は、正直面倒臭い…と敬遠してしまう方も多いと思います。それではもったいない。確かに日々の授業や校務に追われ、校外での研修は負担に感じることもあります。でも、せっかくの貴重な時間を使って行うものですから、できるだけ有効に活用したいものです。

私は、研修で代表授業等の機会があれば、積極的に立候補することにしてしています。多くの人に授業を見てもらうことで、自分の日々の授業を見つめ直すことができます。たくさんのが学べます。同じ教科を教える英語科の先生からの指摘はもちろんですが、他教科の先生からの指摘や質問も、的を射えたり、新たな視点をもらえたりします。一人よがりの授業にならないようにするためにも、授業研究の機会を活用して、自己研鑽けんけんにつなげています。

#### 6. おわりに

教師となって4年目のこと、授業も学級運営も思い通りにいかないことが多く、全て周りのせいにしていた時期がありました。授業がうまくいかないのは生徒の意欲が低く、自主的に勉強しないから、と本気で思っていました。その時に先輩に言われた一言が今でも忘れられません。

「あなたの目の前にいる生徒がかわいそう。生徒のせいにしていても何も変わらないよ。」

「自分が源泉」という言葉があります。全ての結果は自分が生み出している、という考え方です。言い換えれば、全ての結果は自分の心がけや行動次第で変えていける、ということでしょう。自分自身の英語力・指導力を磨くことは、必ず目の前の生徒により影響を与えてくれますし、生徒の成長にもつながっていくと信じています。